

Koryu

栗東国際交流協会

〒520-3088

滋賀県栗東市安養寺1-13-33

TEL 077-551-0293 FAX 077-554-1123

URL <http://www.mediawars.ne.jp/~rittoing/>

E-MAIL rittoing@mediawars.ne.jp

編集 総務広報委員会

Ritto International Friendship Association

◆日本文化を訪ねるバスツアーで交流 ~宇治黄檗山萬福寺・平等院~

第16回異文化交流サロン 平成14年12月8日(日)

今回のバスツアーは、今までの『潮子狩り』から趣向が変わって、京都府宇治市にある萬福寺と平等院を訪ねる異文化交流サロンとなりました。

バスを降りて拝観の前にまず参加者全員の紹介。ペルー、中国、タイ、ブラジルの方々はそれぞれの国のことばで挨拶をしました。「アエノスディース」「ニイハオ」「サワディーカ」「ボンジーア」。

黄檗山萬福寺は、1661年に中国の隠元禪師が開創した中国風の大きな寺院で、厳寒な冬のたたずまいを見せていました。たくさん灯籠がぶらさがっている回廊を談笑しながら歩いたり、世界遺産に登録されている平等院では、拝観の待ち時間に「なるほど」と10円硬貨を出して比べたりする姿などが見られました。オフシーズンということもあってか、両寺院とも観光客はまばらで、幼児も参加の私達にとっては行動しやすく、アットホームな雰囲気ですべてを楽しむことができました。

いろいろな交流風景が見られましたが、日本人メンバーは、外国籍の方々に日本文化を説明するいい機会だったのではないのでしょうか。あるペルーの女性が、平等院の阿弥陀如来坐像について質問しました。「掃除はどうする?」。案内の方にお聞きすると、毎年12月28日頃に掃除をするが、小さな筆のようなもので、ほこりを丁寧に払い落とすだけです。「はしごもかけられない」というのをジェスチャーで説明してくださいました。

宇治ならではの茶の集弁当や、甘いおぜんざいをいただきながら「日本が好き」「日本文化が好き」と言ってくださるのを、うれしく聞きました。



黄檗山萬福寺



萬福寺から平等院に向かう



拝観前の注意を熱心に聞いて



平等院

読者コラムにご投稿ください

エッセイ、紀行文、詩、短歌や俳句など何でも結構です。採用分には薄謝をさしあげます。郵便番号・住所・氏名・年齢・職業・TEL/FAXを添えて事務局までお送りください。なお、匿名を希望される方はその旨お書き添えください。

*読者コラムは、今回はお休みですが、通常3ページ目に掲載します。

“ますます発展する中国”を訪問

中国湖南省衡陽市訪問栗東市使節団【平成15年1月14日～18日】

衡陽市

人口約700万人、面積15300平方キロメートル。湖南省の南部に位置し、交通の要衝で内陸都市として発展してきました。主たる産業は農業（二期作・三毛作）ですが、天然資源にも恵まれており、近年工業面での発展も著しいものがあります。緯度は沖縄と同じくらいですが内陸性気候のため雪が降ることもあります。北部には中国の「五岳」（五山信仰）のひとつ、南岳衡山があります。

國松栗東市長を団長、太田議員を副団長に、7名の団員が栗東市の使節団として、友好都市衡陽市を訪問しました。参加したRIFA団員に伺いました。

林 輝彦：白亜の市庁舎は壮大そのもので、さすが7百万人の顔である。庁舎前の広場も野球場がいくつもできるほど広く、七色に輝く噴水プールまである。市の中央部にある幼稚園では約100人の3～4歳児を対象に全寮制で英才教育がなされている。「普通語（北京語）で話そう」と教職員に呼び掛けている表示には北京との距離を感じた。前日のレセプションでは、「友遠方より来る。また楽しからずや。」と、友好の宴は和やかに時が過ぎ、料理は辛いものが多かったが、人々の心は温かかった。

太田正雄：中国の人々のエネルギーはすごいものである。経済的な面での発展はすごく、もう10年もしないうちに完全に日本を追い越すであろう。衡陽市については、もっと鄙びた町ではなかろうかと思っていたが、中国の中でもさらに発展する都市の典型ではないかと思われた。

我々栗東市民が彼らを迎えるとき、何を学んでほしいか考えてみると、やはり日本人としての繊細さ、緻密さ、思いやり、大自然の美しさ、伝統文化等ではなかろうか。そういうものが今、この国からだんだん遠くなっていくようであれば、はなはだ勿体ない限りではないだろう。

森ます称：中国の人の前向きな姿には、驚かされることが多く、特に設立後わずか14年で中国全土2000社のトップとなり、あの三峡ダム建設に一翼を担っているという変圧器の工場においては、物静かななかにも、揺るぎない自信と決意を感じさせられる責任者の方に、深い感銘を覚えました。日本の企業の提携があり、毎年視察団が訪中されているなかで、直接、工場や利益とは関係ない私たちにに対して、長時間とっていただき感謝にたえません。この工場ばかりでなく、訪問したあらゆるところで、昨日より今日、今日より明日、一歩でも前に行こうとする姿勢に、発展する若い国の力というものを、見た気がします。



衡陽市人民政府(市役所)

大津京子（通訳）：長沙から田園風景を通り抜けて衡陽市内に入ると、人々の生活感が目に入り、春節のお祝いを迎える賑やかさを感じました。歓迎レセプションでは、中国の歌や踊りと琴、琵琶の演奏がされ、私達使節団は「琵琶湖周航の歌」を合唱しました。幼稚園では、園児達の描いた絵の色使いから、明るく希望のある未来を感じました。観光地でもあり、宗教家の修行場でもある南岳は、忙しく働く都会人が心を休めるのに適した場所だと感じました。

念願かなって衡陽市へ

～市民レベルの交流～〔平成14年11月28日(木)～12月2日(月)〕

中国との国交正常化30周年、栗東市と衡陽市との友好都市提携10周年を記念して、市主催、RIFA企画の衡陽市友好交流団が結成され、RIFA交流事業委員長を団長に20人の団員が衡陽市を訪れ、市民レベルの交流を深めました。



内藤貞男団長：市長からの親書をお渡しし、植樹の後、衡陽市民を含む約80名の熱烈な歓迎会に出席しました。栗東市からは舞・尺八・民謡、衡陽市からは歌・踊り・演奏が披露されるなど、この歓迎会の中でも両市の文化交流ができたことが今回の大きな成果であったと思います。

大橋勝副団長：大津絵が描かれた目川ひょうたんを記念品として贈呈の後、市役所の前庭2ヶ所に記念植樹をしました。熱烈大歓迎の宴を催してくださいました中で、「鶴亀」を紋付、袴で舞わせていただき、中国でのよい思い出ができました。団員全員、病気や事故もなく、楽しい旅行をさせていただいたことに感謝します。

青木みさを：上海までの思ったより短い飛行時間は、「意外に近いお隣の国なんだな」という印象でした。記念事業の交流団ではあったけれど、よく考えてみれば、先人が生死をかけて荒波を渡り、書道や仏教を日本に伝えたことを思い出し、それらのルーツを丸ごと抱えるその包容力の大きさに驚かされました。帰国後、「書に親しむ」というきっかけを得て、毛筆や古代中国文字の学習を始め、私の中で一層、中国が膨らんでいます。

武村弘・弘子：親善使節を兼ねてこの旅行を知り、参加しました。先方について大歓迎を受け、びっくりしました。レセプションで、私が尺八を吹き、妻が日本の四季を詠んだ津軽山歌を唄ったのは、私達の一生の思い出となりました。念願の北京観光では、胡宮博物館、万里の長城、そしてめったに入ることの出来ない人民大会堂（国会議事堂）での食事などいろいろ記念すべきことがたくさんありました。

大隅喜代司：初級・高級中学（日本の中学・高校に相当）を見学させていただきましたが、1クラス70～80人の生徒全員が真剣に勉強されていました。夕方遅くの視察でしたが、生徒たちは待っていてくださっていて、太極拳を見せてくれました。小さいながらも一生懸命の生徒の真剣さに感銘しました。

山田 寿一：悠久の歴史、広大な土地、そして56の民族を有する中国。人口700万人を代表する衡陽市人民政府の賀市長、政府要人の温かい接遇は、さすが信義・礼節のお国柄と実感しました。謝謝。市内の第一中学の視察では、教育重視の国策が浸透し、現場の指導管理体制は十分と見受けました。併設の小学、高級中学を含め、3600人の大規模校から北京の大学を目指し、実績を取めている様は、科学を彷彿させます。現下の開放経済策を基に、北京五輪、上海万博を控え、今後益々加速の度を増して発展することを期待し、また楽しみにしています。